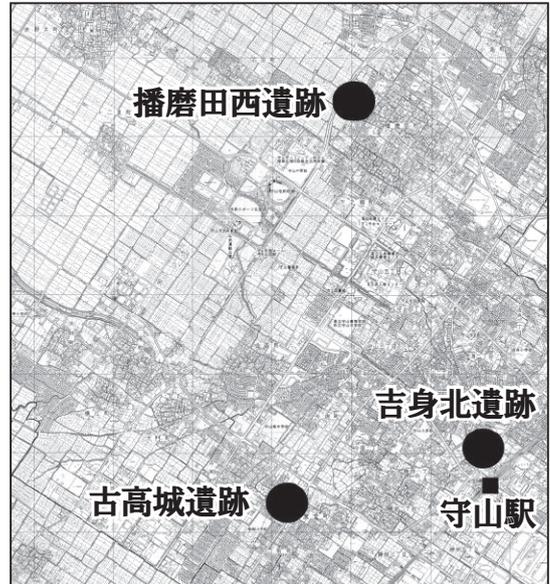


厳しい残暑も過ぎ去り、季節はやや肌寒い秋へと
移り変わっていくのを感じる今日この頃です。

今号では、発掘調査の成果として、7月から実施
していた播磨田西遺跡、個人住宅建設に伴い実施し
た古高城遺跡と、9月から調査を開始した吉身北遺
跡の調査成果を報告したいと思います。

また、例年実施している夏の親子考古学教室と、
8月11日に開催した歴史フォーラムの様子をあわせ
て紹介したいと思います。



● 発掘調査の成果 ●

(1) 播磨田西遺跡

播磨田町時田井中、字竹花地先において、7
月23日～8月10日にかけて、宅地造成工事
に伴い、約340㎡を対象に発掘調査を実施し
ました。これまでの周辺の調査では、平安時
代～鎌倉時代の柱穴や溝などが確認されてい
ます。

今回の調査では、古墳時代の土坑群と、平
安時代～鎌倉時代の建物群が見つかりました。
古墳時代の土坑SK-1～10は、埋土が黒褐
色系の土色をしており、これらのうちの土坑
SK-1、2から6世紀前半の須恵器や土師
器が出土しています。

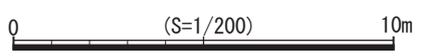
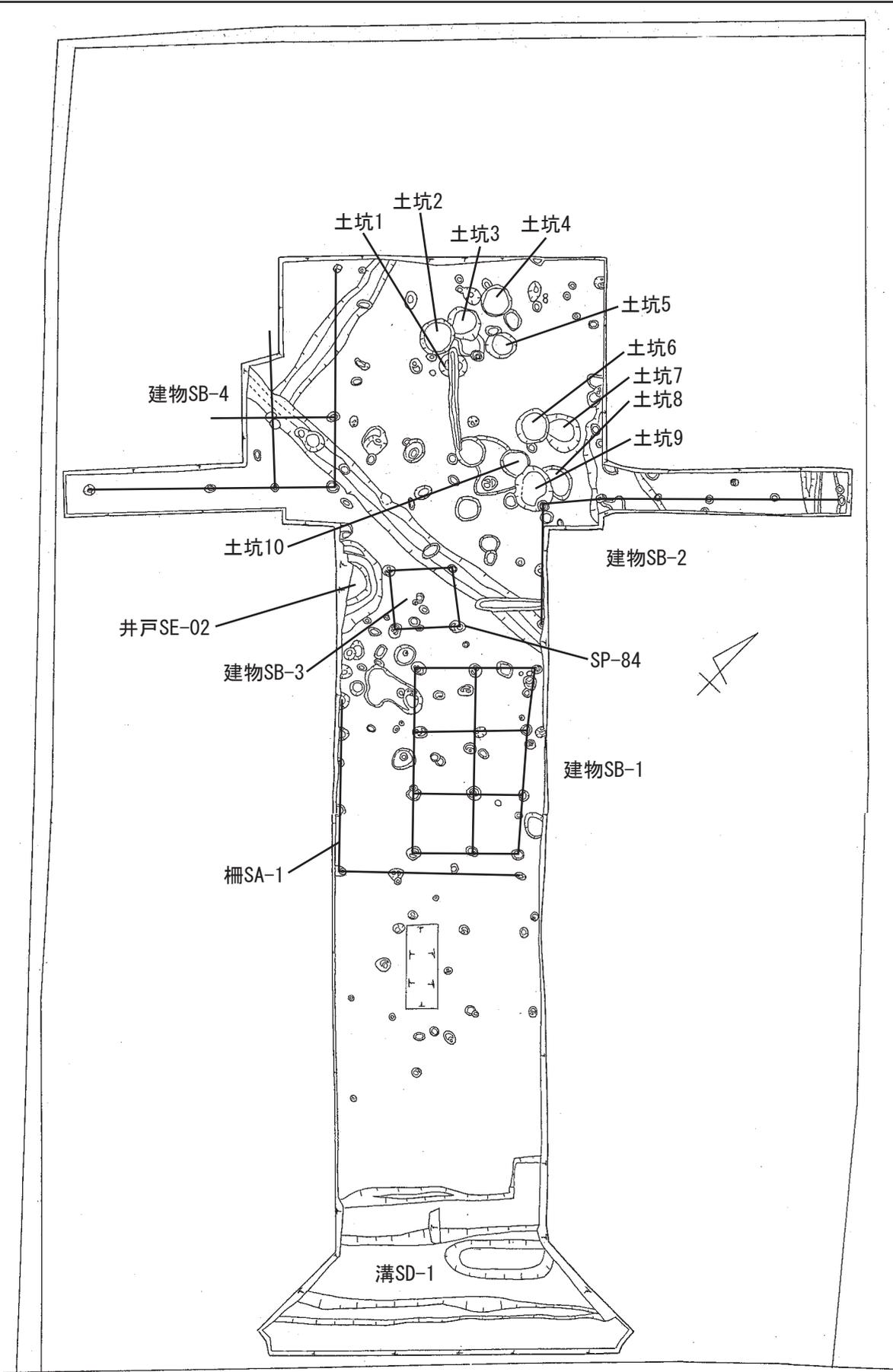
平安時代から鎌倉時代とみられる建物は計
4棟発見できました。そのうちSB-3は、
1間×1間の建物で、出土遺物から10世紀末
から11世紀前半の時期が考えられます。また、
SB-3の柱穴の一つであるSP-84からは、
複数の土師皿が重なって出土したことから、



播磨田西遺跡 トレンチ全景 東から



播磨田西遺跡 トレンチ全景 北から



播磨田西遺跡 遺構平面図

じちん

地鎮の祀りを行ったものと考えられます。SB-1は3間×2間以上の建物跡と想定され、床面積は約24㎡以上の規模で、さらにこの建物の南東辺と南西辺に沿うようにして、柵SA-1が配置されていました。SB-2は5間×2間以上、SB-4は4間以上の×3間以上の規模の建物と想定されます。SB-1・2・4は、建物の主軸方向がほぼ同一で、西に約43度の方向を指しています。これらの建物は、出土した土器から12世紀後半～13世紀前半のものと考えられます。この建物群と同時期の遺構に、井戸SE-02、溝SD-1があります。井戸SE-02は、直径約3.2m、深さ約1.2mを測ります。溝SD-1は、幅約4.7m、深さ約0.5mの規模で、これらの集落を区画する溝の可能性ががあります。

今回の調査によって、周辺には12世紀後半から13世紀前半の集落が広がっていることが新たに判明しました。今後の調査によって、周辺一帯に広がる集落の構造が明らかになっていくことを期待したいと思います。

(平井)

(2) 古高城遺跡(第16～21次調査)

昨年の10月から11月にかけて、焰魔堂町地先において調査をした宅地造成地(第15次調査)で、個人住宅建築に伴い、新たに発掘調査を実施しています。調査対象となっている計8件の区画のうち、6件分の調査が終了し、これらの成果と昨年度の調査成果を合わせることで、新たな知見を得ることができました。

昨年度の調査で10～11世紀の掘立柱建物が多数立ち並ぶ集落遺跡であることがわかっていましたが、その建物の正確な大きさまでは把握することはできませんでした。しかし、今回の調査によって、掘立柱建物の延長部分が確認でき、建物のほぼ正確な規模が把握できたものも見つかりました。また、遺物の出土がなく詳細な年代は不明ではあるものの、SB-1～3などと同一主軸を指し、同じグループに属すると想定できる建物跡SB-8も見つかっています。古高城遺跡については、現在整理作業中で、詳細なことが分かり次第報告したいと思います。

(木下)



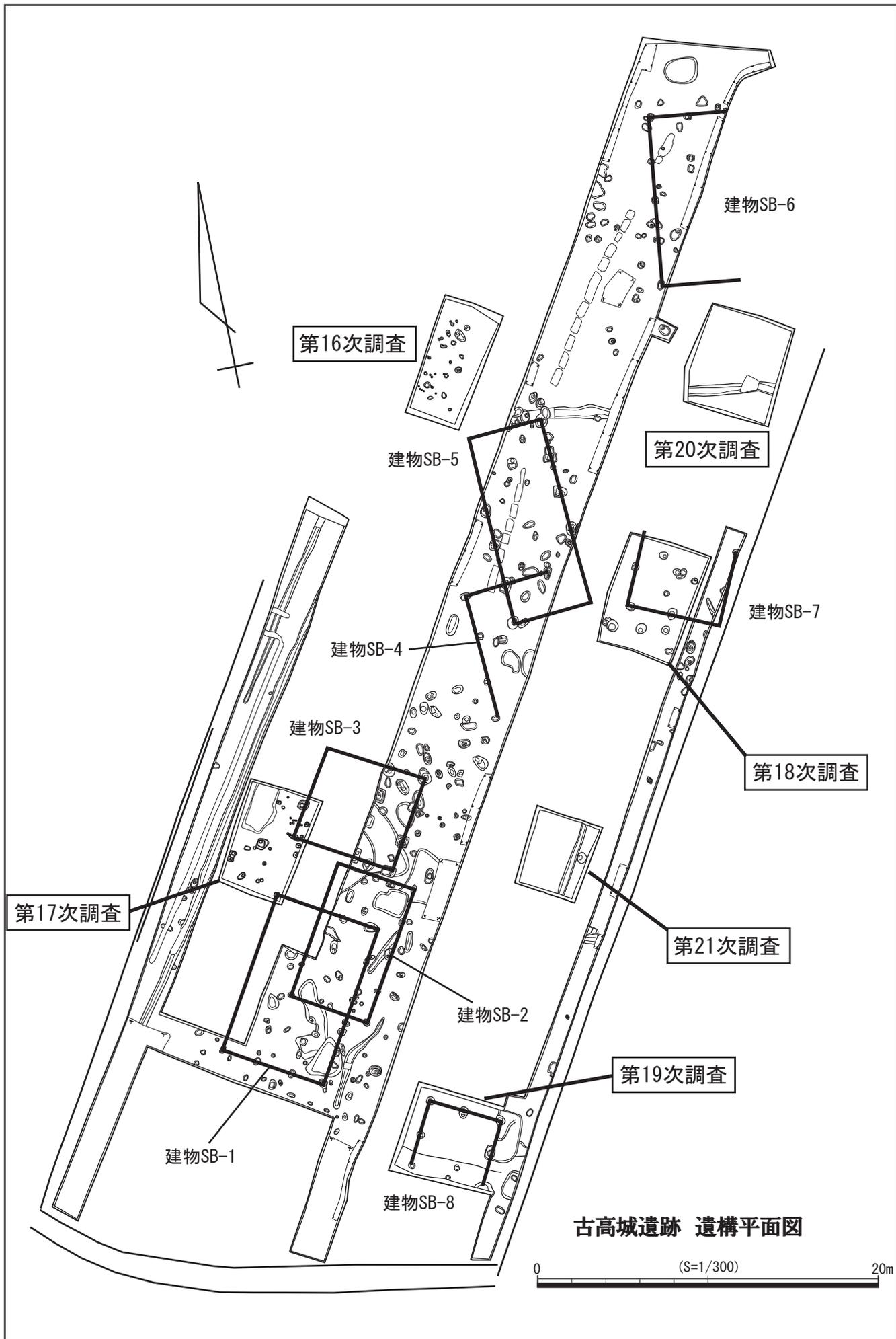
播磨田西遺跡 SP-84 遺物出土状況



播磨田西遺跡 SB-1 南西から



播磨田西遺跡 SB-2 南東から



(2) 吉身北遺跡

9月3日から、梅田町地先において宅地造成工事に伴い、約655㎡を対象に発掘調査を実施しています。調査対象地周辺では、これまでの調査で、弥生時代や古墳時代の集落跡が見つかっており、中でも古墳時代の^{たてあな}堅穴建物からは、^か滑石製の玉製品が多数出土していることで注目されていました。

今回の調査では、すでに堅穴建物一棟が見つかっていますが、床面直上から出土した遺物から8世紀に廃絶したものと考えられます。そしてその埋土には5世紀後半から6世紀初頭の土器と共に、滑石製の^{うすだま}白玉が混入していました。おそらく8世紀段階で堅穴建物が廃絶した際に、その埋土に古墳時代の玉製品が混入していたものと推測されます。このことについては、現在も検討中で、次号でその詳細について報告したいと思います。(木下)



吉身北遺跡 堅穴建物1



吉身北遺跡 滑石製白玉

● 埋文センターでの催し物 ●

(1) 秋の稲刈り体験

今年の春に、中洲幼稚園の園児達に植えてもらった体験学習田の稲もいよいよ収穫の時期になりました。そこで、以前田植えをしてくれた園児達に、稲刈り体験をしてもらう企画を実施しました。園児達には、古代の穂摘み道具である^{いしぼうちよう}“石包丁”や、現代の鎌を使って、実際に穂を摘む体験をしてもらい、中にはとても器用に稲刈りをする子供もいました。ま



た刈り取り後は、稲からお米になるまでの過程を、^{とうみ}唐箕や脱穀機などの民具を使って説明しました。最後には、釜で炊いたおにぎり食べてもらい、園児達は大喜びの様子でした。春の田植え体験にはじまり、稲刈り体験やお米が出来るまでの過程を学ぶことで、お米を作る大変さや、農家の人たちの想いに少しでも興味をもってくれたのではないかと思います。

(2) “火起こし名人” ぞくぞく現る!!

今年の夏から、火起こしに成功した小・中学生に、「火起こし認定証」と「記念ストラップ」を授与することになりました。夏休みに入ると、たくさんの子供達が埋文センターに来館し、火起こしの体験をしてくれました。チャレンジした子供達のほとんどが火起こしに成功し、認定証とストラップをゲットしました。火起こし体験は、随時実施しておりますので、来館された際には、気軽に職員にお尋ねください。

※「火おこし認定証」の授与は、小・中学生のお子様に限らせていただきます。小学3年生以下のお子様は、“煙が出た”時点で成功と認定しますので、初めての方でも成功しやすくなっています。



● 歴史フォーラム「倭国の形成と伊勢遺跡」の開催 ●

8月11日(土)に、守山市民ホールにおいて、歴史フォーラム「—伊勢遺跡国史跡指定記念— 倭国の形成と伊勢遺跡」を開催しました。国史跡に指定された伊勢遺跡について、専門の先生方に様々な視点から、伊勢遺跡の重要性について語っていただきました。当日は240名以上の参加者があり、大盛況の中で幕を閉じることができました。今後も、伊勢遺跡の普及や活用を積極的に行い、守山市を盛り上げていきたいと思えます。



機関紙「乙貞」は守山市のホームページ (<http://www.city.moriyama.lg.jp>) から閲覧できます。